

熊本大学

公開講演会・第7回永青文庫セミナー

竹原家故実と細川藩

永青文庫に残る多数の故実芸
能関係の写本類から、大名家に欠

くことのできない行事や儀式、武
芸の修得など「大名としての体
面」を支えた故実書の実際を検討
し、細川藩の故実相伝に大きな役
割を果たした竹原家歴代の仕事
を考察します。

竹原家は現在も

武田流流鏑馬宗家

として活動して
います。



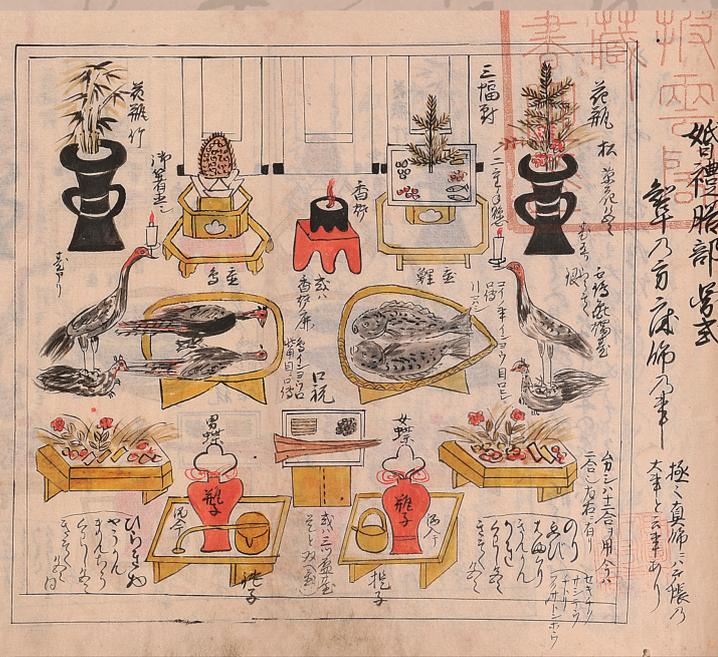
講師 **高濱 州賀子**

(熊本大学文学部附属永青文庫研究センター客員准教授)

日時 **平成24年11月3日(土) 文化の日**
14:00 ~ 15:30

会場 **熊本大学文法棟 1階 A 2 講義室**
(文学部・法学部棟)

入場無料



「婚禮」(全十冊のうち)

「智の方床飾の事」 竹原清太夫筆カ・江戸時代中期

主催：熊本大学附属図書館

協力：熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

公益財団法人永青文庫

「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動本部

竹原家故実と細川藩

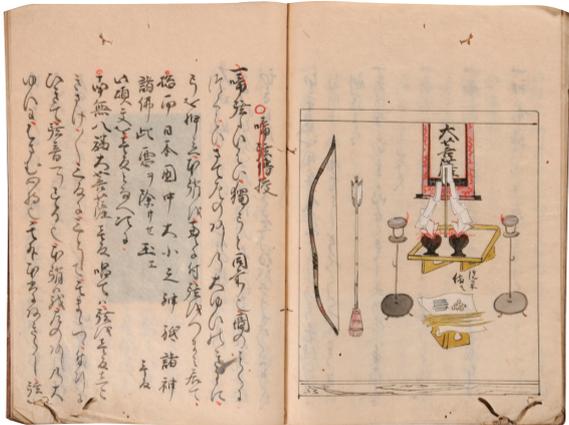
肥後細川家の初代、藤孝（幽齋）は若くして室町幕府に仕え、将軍取次役を務めました。ここで彼は長年に亘って築かれてきた幕府の武家儀礼、儀式作法、武家故実の多くを受け継ぎます。幽齋はその晩年に至り、江戸幕府を開いた徳川家康に『室町家式』と名付けた武家儀礼書を差出し、故実の大家としての面目を施しました。しかしこれは幽齋が伝承してきた様々な故実芸能のほんの一つに過ぎません。

この幽齋の故実相伝に欠くことのできない人物がいました。家臣の竹原市蔵（惟成・少左衛門・墨齋玄可）です。市蔵の親は代々阿蘇家の家臣でしたが、やがて薩摩の島津氏に仕えます。幽齋が豊臣秀吉の命で薩摩の島津義久の許に赴いたとき、八歳だった市蔵に出会い、その才能を見込んで丹後に連れ帰ったといわれます。

市蔵は幽齋のもとで室町幕府儀礼や武田流あるいは伊勢流ほか種々の故実を修得し多数の写本を残しました。

幽齋が亡くなったあとは三齋に仕え、豊前から肥後八代へ従い故実の御用を務めています。その子孫は細川忠利、光尚、綱利、宣紀、宗孝へと代々の藩主の故実方として儀式作法を担当します。宝暦の改革を行った重賢の側近として活躍したのが六代目竹原勘十郎惟親（玄路）でした。

ここでは永青文庫に残る多数の故実芸能関係の写本類から、竹原家各代が関わった資料の分析を試みます。竹原家の人々が伝承してきた弓馬故実、書札礼、暮目鳴弦、婚礼などの吉礼行事次第、饗応儀礼、武術書、武器武具や調度の故実など様々な資料です。幽齋と市蔵から始まり、大切に保存され、写し継がれ、現在に至った貴重な資料を検討し、細川藩の「弓馬故実の家筋」と認識されていた竹原家の役割を考察します。



ひきめ
『当家暮目伝授』から「神前飾りの事」(右図面)
竹原勘十郎惟親筆（六代目）1743年

アクセス



◎交通センターから
産交バス：楠団地、武蔵ヶ丘、大津行き等（子飼橋経由）
「熊本大学前」下車 徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

会場案内図



問い合わせ
熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1
096-342-2212
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター